

No. 946

特集 断絶の銃弾

—泰子さんは無事救出される—

連合赤軍の一昧が牟田泰子さんを人質に軽井沢・浅間山荘にたてこもって10日、ついに「決断の時」はきた。泰子さん救出作戦の総指揮者野中長野県警本部長は、2月27日夜「あえて、救出強行に踏切る覚悟であります」と決意を表明した。

たびかさなる説得や、銃撃にさらされての4日間にわたる強行偵察も泰子さんの安否を確認することは出来なかつたが、生きていれば、泰子さんの心身の状況からおして、28日がもう限度であると結論がだされた。

2月28日、午前10時を期し、泰子さん救出のための「X作戦」の命令は下った。特別攻撃部隊は鉄カブトと防弾チョッキ、実弾そうてんのピストルで完全武装、ガス弾を正面玄関めがけて十数発を撃ち込み、さらに銃眼をめがけて、さらに警察側は、巨大なクレーン車と削岩機の使用に踏み切り、三階玄関右側のモルタルの外壁に大きな穴をあけ、その間から激しい放水を続けた。しかし、犯人側も銃や爆弾で応戦、その凶弾のため警察官2人が死亡、さらに13人にのぼる重軽傷者をだした。

作戦開始後8時間、犯人の最後のトリで、ベッド・ルーム「いちょうの間」に突入した警視庁第九機動隊員らによって、人質泰子さんは無事救出、坂東国男ら5人の連合赤軍のメンバーを逮捕した。このX作戦は、犯人らのライフル、獵銃の乱射、警官隊のガス弾、大量放水のあとで、ずぶぬれの泰子さんが発見されるという劇的な救出作戦だった。